

I 伐採、造林、保育その他森林の整備及び保全に関する基本的な事項

1 森林整備の現状と課題

本町は、北海道の西南部に位置し、東経140° 31' ~46' 北緯42° 33' ~43' にあって、南は内浦湾（噴火湾）に面し、対岸に駒ヶ岳を抱える渡島連山を眺望します。

海岸線に沿って東は洞爺湖町、西は長万部町、北は昆布岳連峰を境として真狩村及びニセコ町、北西は昆布川に沿って黒松内町、蘭越町にも隣接し、東西17.0km、南北に16.5km、海岸線は16.8kmの間にあり、本町の総面積は23,354haです。

森林面積は17,901haで、総面積の76%を占め、所有区分では国有林112ha(1%)、道有林4,786ha(27%)、一般民有林13,002ha(72%)でその内1,358haが町有林となっています。

海岸線に近い急傾斜地の多くと、昆布岳を中心とする高標高地域は道有林または国有林で、魚付き保安林や山地災害防止林等に指定されています。

本町の一般民有林は、在村所有者である農家林家が植栽した人工林と薪炭林施業後の天然性林が多く、昭和40年代後半からの不動産ブームによる土地価格の高騰により、投機目的による山林の売却が行われ、同時期の離農、森林所有者の山離れによる伐採放置林分が急速に増大しました。その時期、進められた拡大造林政策により一部の森林はトドマツ人工林等へと林種転換が行われ、その後は、森林組合による事業により各森林所有者のニーズに沿った森林施業が実施されています。

一般民有林の内、3,706ha(28%)が人工林で、トドマツが2,233ha(60%)、カラマツが670ha(18%)、広葉樹人工林が281ha(8%)等ですが、急傾斜地が多く全道平均の37%より少なくなっています。昭和30年代から大規模に造林されてきたカラマツとトドマツ人工林は伐採時期を迎え、また既に収穫後の更新が行われていますが、町内山林の多くが古くから不在村者所有の山林となっているため、造林等による更新が行われない伐採地が近年増加し、無立木地の増加が懸念されています。

また、林業担い手や木材産業に従事する人の減少により、地域での林業への関心は大幅に低下しています。このような林業を取り巻く環境が大きく変化するなかで、森林所有者の世代交代や所有目的等の変化もおきています。

伐採後半世紀近く放置されてきている天然林や、手入れ不足の人工林を適正な保育や間伐の実施により整備し、また2次林の天然広葉樹林を優良天然林に誘導するなどの施業が、地域ぐるみで推進される体制づくりを図る必要があります。このような作業を確実に実施してゆくことで地域住民や森林所有者のニーズにこたえてゆくことが可能となります。

投機目的で購入され所有していた林地や、伐採後の放置山林を購入し、経営に意欲的な所有者や新規参入者等の林業経営参加を推進することは、数十年にわたる林業の低迷期を変え、適正に森林整備を拡大させてゆくことにつながります。このように森林所有者の経営意欲の向上が図られるような方策を、関係機関全体で、共同して取り組まなければなりません。これからの森林整備の課題解決に向けての重要な課題は、経営意欲のある森林所有者の増加に期待するところが大きくなっています。

森林所有者の世代交代や意識の変化を踏まえた効果的な対応が必要です。これらの時代的变化の中で、これまで無関心だった森林所有者が、森林自然環境の重要性に関する社会的評価などから、所有山林に関心を持つような傾向も生み出されています。

一般民有林の整備を図るに際しては、昭和30年代から植栽されてきた人工造林地の生育経過や天然林の更新後の経過、これらの現状と、過去の施業の問題点等を確認することを踏まえて、森林の有する多様な機能をさらに高度に発揮できる森林へ誘導させる施業方法の改善を図る必要があります。伐採跡地の確実な更新と保育・間伐の必要な林分への整備を行い、資源の持続に努めてゆくことが重要であり、無立木地の解消や多くの管理放棄林分の解消に向けて、一人でも多くの森林所有者の経営意欲向上を図り、共同的な作業実施の推進に向けた取り組みを開始する必要があります。

本町の中心を流れるサケの養殖河川である貫気別川の流域と、海岸線の急峻傾斜地の土砂流出防止は周辺森林の機能向上に大きく依存し、機能の高い河畔林や河川流域の広葉樹林の整備を進めてゆくことが森林の公益的機能を発揮するだけでなく、住民の理解をさらに深め生活安定の一助と、本町の発展のために役立つことにもなります。20年に及ぶ漁協婦人部による植樹活動をさらに進め、森林自然環境

に対する町民の意識を森林・林業への理解者へと高められることとなります。

町内の森林は、その自然的・地域社会的なそれぞれの要因によって期待される役割も異なります。それぞれの森林が特に発揮されるべき役割を、期待される機能に応じてその機能を十全に発揮しうる森林として総合的に整備を図る必要があります。これらの森林整備を推進する上で最も重要となる林業労働力について、本町の林業労働の担い手である胆振西部森林組合は、現在、造林・保育作業を中心とした体制となっていますが、今後主伐期を迎える林分が多く、また、間伐を計画的に推進するためにも、高性能機械の導入も含め、伐採及び更新を計画的に実施するための体制整備を推進することとします。そのためにも必要な森林施業の共同化及び長期委託契約の締結による事業の実施を重点的に進めます。

2 森林整備の基本方針

(1) 地域の目指すべき森林資源の姿

森林は、国土の保全、水資源の涵養及び快適な生活環境の保全等の交易に資する機能や木材等を生産する機能を有しており、私たちの生活に深く結びついています。こうしたことから、森林の整備及び保全にあたっては、森林の有する多面的機能を総合的かつ高度に発揮させるため、適正な森林施業の面的な実施や森林の保全の確保により、健全な森林資源の維持造成を推進します。

その際、生物多様性の保全や地球温暖化の防止に果たす役割はもとより、豪雨の増加等の自然環境の変化、急速に進む少子高齢化と人口減少、所有者不明山林や整備の行き届いていない森林の存在等の社会的情勢の変化にも配慮します。

また、近年の森林に対する道民の要請を踏まえ、流域治水とも連携した国土強靱化対策を推進するとともに、航空レーザー測量等のリモートセンシングによる高精度な森林資源情報や詳細な地形情報の整備により、現地調査の省力化や適切な伐採区域の設定、林道等の路網整備の効率化、崩壊リスクが高い箇所における効率的な治山施設の配置等を推進することとします。あわせて、シカ等による森林被害も含めた森林の状況を的確に把握するための森林資源のモニタリングの継続的な実施やリモートセンシング及び森林GISの効果的な活用を図ることとします。

このため、森林を地域の特性、森林資源の状況並びに自然条件及び社会的要請を総合的に勘案し、それぞれの森林が特に発揮することを期待されている機能に応じて森林の有する公益的機能の維持増進を図るべき森林としての公益的機能別施業森林と、木材の生産機能の維持増進を図るための森林整備及び保全を推進すべき森林（以下「木材等生産林」という。）の区域を設定するとともに、公益的機能別施業森林については、水源の涵養の機能の維持増進を図るための森林整備及び保全を推進すべき森林について「水源涵養林」、山地災害の防備及び土壌の保全の機能の維持増進を図るための森林整備及び保全を推進すべき森林について「山地災害防止林」、快適な環境の形成の機能の維持増進を図るための親臨整備及び保全を推進すべき森林について「生活環境保全林」及び保健文化の維持増進を図るための森林整備及び保全を維持すべき森林について「保健・文化機能等維持林」の区域（以下「森林の区域」という。）を設定します。

さらに、「水源涵養林」においては、水道取水施設上流部に位置し、水資源の安定供給のために特に保全が求められる森林について、「水資源保全ゾーン」、「保健・文化機能等維持林」においては、河川や湖沼周辺等に位置し生物多様性保全の機能の発揮のために特に保全が求められる森林について、「生物多様性ゾーン（水辺林タイプ）」及び貴重な森林生態系を維持し特に保全が求められる森林については、「生物多様性ゾーン（保護地域タイプ）」を、「木材等生産林」においては、森林資源の保続に配慮しつつ、多様な木材需要に応じた持続的、安定的な木材生産を可能にするため、伐採後に原則植栽による更新を行う森林について「特に効率的な施業が可能な森林」とそれぞれの区域の中で重ねて設定します。

この森林の区域に応じた望ましい森林の姿へ誘導するため、育成単層林における適確な更新や保育及び間伐の積極的な推進、広葉樹林化・針広混交林化を含め、人為と天然力を適切に組み合わせた多様な育成複層林の計画的な整備、天然生林的な確かな保全及び管理等に加え、保安林制度の適切な運用、山地災害や野生鳥獣被害等の防止対策の推進等により、発揮を期待する機能に応じた多様な森林の整備及び保全を図ることとします。

また、林道等の林内路網は、効率的な森林施業や森林の適正な管理経営に必要不可欠であり、農山村地域の振興にも資することから、計画的な路網整備を推進することとします。

(2) 森林整備の基本的な考え方及び森林施業の推進方策

森林の区域ごとの望ましい森林の姿並びに森林整備及び保全の基本方針は目標のとおりとします。

【森林の区域と森林整備の基本方針】

公益的機能別施業森林

発展を期待する機能	森林の区域	望ましい森林の姿	森林の整備及び保全の基本方針
水源涵養機能	水源涵養林	下層植生とともに樹木の根が発達することにより、水を蓄える隙間に富んだ浸透・保水能力の高い森林土壌を有する森林であって、必要に応じて浸透を促進する施設等が整備されている森林。	良質な水の安定供給を確保する観点から、適切な保育・間伐を促進しつつ、下層植生や樹木の根を発達させる施業を行うとともに、伐採に伴って発生する裸地の縮小及び分散を図る施業を推進する。
	水資源保全ゾーン	下層植生とともに樹木の根が発達することにより、水を蓄える隙間に富んだ浸透・保水能力の高い森林土壌を有する森林で、多様な樹種構成及び樹齢からなる森林。	良質な水の安定供給を特に確保する観点から、伐採に伴って発生する裸地の縮小及び分散、植栽による機能の早期回復並びに濁水発生回避を図る施業を推進する。
山地災害防止機能 土壌保全機能	山地災害防止林	下層植生が生育するための空間が確保され、適度な光が射し込み、下層植生とともに樹木の根が深く広く発達し土壌を保持する能力に優れた森林であって、必要に応じて山地災害を防ぐ施設等が整備されている森林。	災害に強い地域環境を形成する観点から、地形、地質等の条件を考慮した上で、林床の裸地化の縮小及び回避を推進する。 また保安林の指定及びその適切な管理を推進するとともに、併せて、渓岸の侵食や山地の崩壊を防止する必要がある場合には、谷止めや土留等の施設の設置を推進する。
快適環境形成機能	生活環境保全林	樹高が高く枝葉が多く茂っているなど、遮蔽能力や汚染物質の吸着能力が高く、諸被害に対する抵抗性が高い森林。	地域の快適な生活環境を保全する観点から、風や騒音等の防備や大気の浄化のために有効な森林の構成の維持を基本とし、快適な環境の保全のための保安林の指定やその適切な管理、及び防風・防潮や景観の創出等生活環境の保全等に重要な役割を果たしている海岸林等の保全を推進する。

保健・レクリエーション機能 文化機能 生物多様性保全機能	保健・文化機能等維持林		<p>身近な自然や自然とのふれあいの場として適切に管理され、多様な樹種等からなり、住民等に憩いと学びの場を提供している森林であって、必要に応じて保健・教育活動に適した施設が整備されている森林。</p> <p>史跡、名勝や天然記念物など一体となって潤いのある自然景観や歴史的風致を構成している森林であって、必要に応じて文化活動に適した施設が整備されているなど、精神的・文化的・知的向上等を促す場としての森林。</p> <p>原生的な森林生態系、希少な生物が生育・生息する森林、陸域・水域にまたがり特有の生物が生育・生息する溪畔林等、その土地固有の生物群集を構成する森林。</p>	<p>保健、レクリエーション利用や文化活動、生物多様性の保全を進める観点から、森林の構成を維持して樹種の多様性を増進することを基本とし、それぞれの森林が求められる機能やあり方に応じ、保護及び適切な利用の組み合わせに留意して、適切な保育・間伐等や広葉樹の導入を図る施業を推進する。</p> <p>保健・風致の保存等のための保安林の指定やその適切な管理を推進するとともに、住民等にとって憩いと学びの場として期待される森林にあっては、立地条件や道民のニーズ等に応じ広葉樹の導入を図るなどの多様な森林整備を推進する。また、潤いある自然景観や歴史的風致の創出を期待される森林にあっては、美的景観の維持・形成に配慮した森林整備を推進する。</p>
	生物多様性ゾーン	水辺林タイプ	日射遮断、隠れ場形成など野生生物の生育・生息に適した森林や、周辺からの土砂・濁水等の流入制御等に寄与している森林で、針広混交林などの多様な樹種構成及び樹齢からなる森林。	水辺における生物多様性保全の観点から、森林の保全に配慮した施業を推進するとともに、濁水発生の回避を図る施業を推進する。
保護地域タイプ		貴重な森林生態系を構成し、希少な野生生物の生息・生育に適した森林で、針広混交林などの多様な樹種構成及び樹齢からなる森林。	希少な野生生物の生育・生息地確保の観点から、原生的な森林の保全や希少種の保全に配慮した施業を推進するとともに、野生生物のための回廊の確保にも配慮した生態系として重要な森林の適切な保全を推進する。	

公益的機能別施業森林以外の森林

重視すべき機能	森林の区域	望ましい森林の姿	森林の整備及び保全の基本方針
木材等生産機能	木材等生産林	林木の生育に適した土壌を有し、木材として利用する上で良好な樹木により構成され、成長量が高い森林であって、林道等の基盤施設が適切に整備されている森林。	木材等の林産物を持続的、安定的かつ効率的に供給する観点から、森林の健全性を確保し、木材需要に応じた樹種、径級の林木を生育させるための適切な造林、保育及び間伐等を推進する。また、将来にわたり育成単層林として維持する森林では、主伐後の植栽による確実な更新を行うとともに施業の集約化や機械化を通じた効率的な整備を推進する。
	特に効率的な施業が可能な森林	特に材木の生育に適した土壌のほか、傾斜が緩やかであるなどの自然条件を有し、木材として利用する上で良好な樹木により構成され成長量が高い森林であって、林道等の基盤	特に木材等の林産物を持続的、安定的かつ効率的に供給する観点から、森林の健全性を確保し、木材需要に応じた樹種、径級の材木を生育させるための適切な造林、保育及び間伐等を推進する。また、区域設定した人工林にあっては、主伐後は原則、植栽による確実な更新を行

		施設が適切に整備されている森林。	うとともに、施業の集約化や機械化を通じた効率的な整備を推進する。
--	--	------------------	----------------------------------

3 森林施業の合理化に関する基本方針

- ア 長伐期施業や複層林施業による多様な森林への誘導や皆伐に伴う裸地面積の縮小及び分散を図るよう努めることとします。
- イ 森林の有する公益的機能が重視される森林で風害の受けやすい地域においては、風害に強い多様な樹種・樹冠層により形成される森林へ誘導するため、人工造林や天然更新（地表処理等）を適切に組み合わせ、樹種や林齢の異なる林分構造とすることを基本とします。
- ウ 種の保存法（絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律）に定める「国内希少野生動植物種」及び北海道生物の多様性の保全等に関する条例に定める「指定希少野生動植物種」並びに文化財保護法又は文化財保護条例で「天然記念物」及び「特別天然記念物」に指定されている野生生物の生息環境の保全を図るため、これらの生育・生息状況に配慮した森林施業を図るよう努めることとします。

II 森林の整備に関する事項

第1 森林の立木竹の伐採に関する事項（間伐に関する事項を除く）

1 樹種別の立木の標準伐期齢

本町における立木の標準的伐期齢は、標準的な自然条件及び社会的条件にある森林における平均成長量が最大となる林齢を基準とし、森林の有する公益的機能、既往の平均伐採齢及び森林の校正を勘案して次のとおり定めます。

なお、標準伐期齢は、地域の標準的な立木の伐採（主伐）の時期に関する指標として定めるものであり、定めた林齢に達した時点での森林の伐採を促すためのものではありません。

また、保安林等における伐採規制等の指標に用いられます。

【主伐時における標準的な伐期齢】

	樹種	標準伐期齢
人	エゾマツ・アカエゾマツ	60
	トドマツ	40
	カラマツ(グイマツとの交配種を含む)	30
工	スギ	50
	その他針葉樹	40
林	シラカンバ・ドロノキ・ハンノキ(天然林を含む)	30
	その他広葉樹	40
天然林	主として天然下種によって生立する針葉樹	60
	主として天然下種によって生立する広葉樹	80
	主として萌芽によって生立する広葉樹（注）	25

(注)「主として萌芽によって生立する広葉樹」とは、薪炭材、ほだ木等の原木生産を目的として、萌芽によって更新を図る広葉樹の森林

2 立木の伐採（主伐）の標準的な方法

Iの2の森林整備の基本方針を踏まえ、適切な森林の施業方法により、立木を伐採することとします。

(1) 主伐については、更新を伴う伐採であり、その伐採方法別の留意点については次によるものとします。

ア 皆伐

皆伐については、主伐のうちイの択伐以外のものとします。

皆伐にあたっては、気候、地形、地質、土壌等の自然条件のほか車道等や集落からの距離といった社会的条件及び森林の有する公益的機能の確保についての必要性を踏まえ、一箇所当たりの伐採面積の規模及び伐採区域のモザイク的配置や景観への影響に配慮し、適確な更新を図るものとします。

なお、一箇所当たりの伐採面積は原則として20haを超えないよう、伐採面積の縮小及び伐採個所の分散に努めることとします。

伐採の時期については、地域の森林の齢級構成等を踏まえ、森林の有する多面的機能発揮との調和に配慮することとします。

イ 択伐

択伐は、立木の一部を伐採する方法であり、森林の有する多面的機能の維持増進が図られる適正な林分構造となるよう、一定の立木面積を維持することとし、適切な伐採率によることとします。

伐採後の更新を確保するため、あらかじめ適切な更新方法を定め伐採を行うこととし、母樹の保存、種子の結実飛散状況、天然幼稚樹の生育状況等を勘案して行うこととします。

天然更新を前提とする択伐は、伐採跡地が連続することがないように、周辺森林の成木の樹高程度の幅を確保し、択伐率は、原則として材積に係る伐採率が30%以下（伐採後の造林が植栽による場合にあっては40%以下）とします。

なお、択伐にあたっては、森林の有する多面的機能の維持増進が図られる適正な林分構造となるよう、適切な伐採率により一定の立木材積を維持することとします。

(2) 主伐にあたっては、森林の有する公益的機能の発揮と森林生産力の維持増進に配慮して行うこととし、伐採跡地が連続することがないように、伐採跡地間には少なくとも周辺森林の成木の樹高程度の林帯幅を確保します。

また、伐採作業に伴う林業機械の走行等に必要の集材路の作設等にあたっては、伐採する区域の地形や地質等を十分に確認した上で配置の計画や施工等を行い、森林の更新及び森林の土地の保全への影響を極力抑えることとします。伐採の対象とする立木については、標準伐期齢以上を目安として選定することとします。

(3) 伐採後の適確な更新を確保するため、あらかじめ適切な更新の方法を計画し、その方法を勘案して伐採を行うとともに、地拵えや植栽等の造林作業、天然稚樹の生育の支障とならないよう枝条類を整理することとします。特に、伐採後の更新が天然更新により行われる場合には、天然稚樹の生育状況、母樹の保存、種子の結実、飛散状況等を配慮して行うこととします。

(4) 複層林施業の主伐を行う場合は、上層木の樹冠層を保残させることに特に留意し、自然条件を踏まえ、森林を構成している樹種、林分構造等を勘案して行うこととし、下層木の発芽や育成に配慮するために十分な光が当たるよう、適切な伐採率及び繰り返し期間により行うこととします。

3 その他必要な事項

ア 林地の保全、雪崩及び落石等の防止、寒風害などの各種被害の防止、風致の維持、溪流周辺や尾根筋等、森林における生物多様性の保全などのために必要がある場合には、人工林・天然林を問わず所要の保護地帯を設置することとします。

イ 次の地域は、林地崩壊、生態系のかく乱などにつながるおそれがあり、また、伐採後の更新が困難となることから、皆伐を行わないよう努めることとします。

a 確実な更新が困難な湿地・風衝地・岩石地等

b 土砂の流出や崩壊が発生するおそれがある急傾斜地・石礫地・沢沿い等

c 野生生物の生育・生息の場の提供、水質浄化、土砂や濁水の流入制御等の機能を持つ河川や

湖沼周辺の水辺林等

- ウ 伐採作業等に伴う立木への損傷は、将来的に腐朽菌被害の発生につながるおそれが高いことから、伐採等にあたっては、必要に応じて保護板(あて木)を設置するほか、機械の林内走行の範囲を森林作業道・集材路に限定するなどにより、伐採しない立木への損傷をできる限り減らす作業に努めることとします。
- エ 伐採等の実施にあたっては、降雨等による土砂や汚濁水の流出防止に努めると、伐採作業の途中であっても大雨が予想される場合等には、必要に応じて集材路等に排水路を作設するなど、浸食防止に努めることとします。
- なお、水道取水施設の上流で造材を行う場合等で、降雨等により河川の汚濁が懸念される場合は、伐採・搬出を土壌が凍結する冬季間に行うなど時期や方法に配慮することとします。また、特に河川周辺で造材を行う場合は、増水時に枝条や残材等が流出して流木被害の一要因とならないよう、十分に留意することとします。
- オ 特色ある森林景観や野生生物の生育・生息環境の保存に配慮した伐採を行うこととします。
- 特に、クマガラ、シマフクロウ及びクマタカの希少鳥類について、営巣木が確認された場合、その営巣木の位置や営巣期間等に配慮し、伐採の内容や伐採の時期の調整を行うこととします。
- カ 集材路とは、立木の伐採、搬出等のために林業機械等が一時的に走行することを目的として作設される仮施設をいい、規格は森林作業道と同等かそれ以下とします。土場とは、集材路を使用して木材等を搬出するため、木材等を一時的に集積し、積込みの作業等を行う場所をいい、集材路・土場は、使用後は原則植栽等により植生の回復を促します。
- なお、詳細については「主伐時における伐採・搬出指針の制定について」(令和3年3月16日付け2林整整第1157号林野庁長官通知)によることとします。

第2 造林に関する事項

- I の2の森林整備の基本方針を踏まえ、適切な森林の施業方法により造林することとします。
- 特に天然更新については不確実性が伴うことから、現地の状況を十分確認すること等により適切な更新方法を選択するものとします。

1 人工造林に関する事項

人工造林については、植栽によらなければ適確な更新が困難な森林や森林の有する公益的機能の発揮の必要性から植栽を行うことが適当である森林のほか、木材等生産機能の発揮が期待され、将来にわたり育成単層林として維持する森林において行うこととし、効率的な森林整備を行うため、将来の保育コストを抑える観点から、高性能林業機械の導入を見据えた施業プランのもとで検討することとします。

(1) 人工造林の対象樹種

- ア 人工造林の対象樹種は、気候、地形、地質、土壌などの自然条件への適合、それぞれの樹種の特質、既往の成林状況など適地適木を基本として、地域における造林種苗の需給動向及び木材需給等にも考慮することとし、苗木の選定については、成長に優れた特定苗木等の積極的な使用に努めることとします。
- イ 多様な森林整備を図る観点から、広葉樹や郷土樹種を含め、幅広く樹種を検討するものとします。特に河畔沿いについては、河川の水質浄化や落葉等による有機物の供給などが期待できることから、積極的に広葉樹を選定するものとします。
- なお、山腹崩壊の危険性が高い急傾斜地や沢沿いについては、カツラやミズナラ等の深根で根系の支持力が大きい樹種の植栽に考慮することとします。
- ウ 育成複層林へ誘導する林分については、樹種の耐震性や既往の成林状況、自然条件等を勘案し、植栽樹種を選定することとします。

区 分	樹 種 名	備 考
人工造林の 対象樹種	カラマツ、トドマツ、アカエゾマツ、エゾマツ、スギ、グイマツ（F1を含む）、カツラ、カンバ類、ドロノキ、ハンノキ、ミズナラ、ヤチダモ、アオダモ、シナノキ、ハリギリ、その他郷土樹種	その他特用樹(キリ、クリ、クルミ、イヌエンジュなど)

なお、その他郷土樹種及び定められた樹種以外の樹種を植栽しようとする場合は、林業普及指導員等と相談の上、適切な樹種を選択することに努めるものとします。

(2) 人工造林の標準的な方法

ア 育成単層林を導入または維持する森林

- a 寒風害等の気象害及び病虫害等に考慮し、保護木・保護樹帯の配置、同一樹種の大面積造林の回避など、多様な森林の整備に配慮して行うものとし、適確な更新により裸地状態を早急に解消するため、気候、地形、地質、土壌等の自然条件に適合した樹種を早期に植栽するものとします。特に、水源涵養林、山地災害防止林^{かん}にあつては、林地の安定化を目的とした無立木地への植栽を積極的に行うものとします。
- b 効率的な施業実施の観点から、技術的合理性に基づき、コンテナ苗の活用や伐採と造林の一貫作業についても努めることとします。
- c 地拵えは、それぞれの地域の自然条件、植生、過去の野ねずみ被害の状況等を考慮したうえで、全刈りまたは筋刈りにより行うものとします。
なお、土砂の流出が懸念される急傾斜地等の場合は、全刈りを避け、刈払いの方向や枝条等の置き場に十分に留意することとします。
- d 植栽時期は春または秋植えとしますが、乾燥時期を避け、必要に応じて植え穴を大きくして植え付けるなど、その後の苗木の活着と成長が十分図られるように行うものとします。
- e コンテナ苗は、裸苗に比べ植栽が可能となる期間が長いことから、必ずしも第3の2の(1)の(ア)のdの時期によらないものとしますが、自然・立地条件等を十分に考慮し、確実な成林が期待できるよう植付時期の配慮に努めることとします。

【植栽時期】

区 分	樹 種	植 栽 時 期
春植え	トドマツ、アカエゾマツ	4月初旬～ 6月上旬
	カラマツ、その他	4月初旬～ 5月下旬
秋植え	トドマツ、アカエゾマツ	9月上旬～11月上旬
	カラマツ、その他	9月下旬～11月中旬

- f 植栽本数は、次表の主要樹種の植栽本数を基礎として、既往の植栽本数及び個々の樹種特性を勘案して仕立ての方法別に定めることとし、多様な森林の整備を図る観点から、様々な施業体系や生産目標を想定した植栽本数について検討するものとします。

なお、周囲の人工林の生育状況、気象災害の発生状況等を勘案し、森林の有する多面的機能の発揮や植栽コストの低減を図る場合には、次表に関わらず本数の低減についても併せて検討するものとします。特に、初期成長が早く、通直性や耐鼠性が向上したグイマツ雑種F1等を植栽する場合は、植栽本数の低減に努めるものとします。植栽本数の低減にあたっては、将来の保育コストを抑える観点から、高性能林業機械の導入を見据えた植栽設計を検討するものとします。

また、周囲に樹冠が十分発達した母樹があり、天然更新も期待できる林分にあつては、天然更新木の積極的な活用を検討するものとします。

【植栽本数】

仕立ての方法	樹 種				
	カラマツ	トドマツ	その他針葉樹	アカゾエマツ	広葉樹
密仕立て	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500
中庸仕立て	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
疎仕立て	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500

なお、定められた標準的な本数の範囲を超えて植栽しようとする場合は、林業腐朽指導員と相談の上、適切な植栽本数を判断して行うように努めるものとします。

g 効果的な施業実施の観点から、技術的合理性に基づき、コンテナ苗の活用や伐採と造林の一貫作業システムの導入について努めることとします。

イ 育成複層林を導入又は維持する森林

下層木の成長に必要な照度を常に確保することとします。

なお、植栽により更新を確保する場合は、上層木の枝下部への植栽を避けることとし、植栽本数については、標準的な植栽本数に上層木の材積伐採率を乗じた本数以上を基本とすることとします。

(3) 伐採跡地の人工造林をすべき期間

皆伐による伐採跡地については、林地の荒廃を防止し、裸地状態を早急に解消するため、当該伐採が終了した日を含む年度の翌年度の初日から起算して2年以内に人工造林を実施し、更新を図ることとします。

択伐による部分的な伐採跡地については、伐採が終了した日を含む年度の翌年度の初日から起算して5年以内に人工造林を実施し、更新を図ることとします。

2 天然更新に関する事項

天然更新は、前生稚樹の生育状況、母樹の存在等の対象森林の現況はもとより、気候、地形、地質、土壌等の自然条件、林業技術体系等からみて、主として天然力を活用することにより適確な更新が図れる森林において行うこととします。

(1) 天然更新の対象樹種

天然更新の対象樹種は、天然下種更新ではイタヤカエデ、カンバ類、シナノキ、ハリギリ、ハンノキ類、ミズナラ、ヤチダモなど高木性の樹種とし、ぼう芽更新ではイタヤカエデ、ハルニシ、ミズナラなど高木性でぼう芽性の強い樹種とします。

区 分	樹 種	備 考
天然更新の対象樹種	イタヤカエデ、カンバ類、シナノキ、ハリギリ、ハンノキ類、ミズナラ、ヤチダモ、ハルニシ	

(2) 天然更新の標準的な方法

ア 天然更新の完了の判断基準

第2の2(3)に定める天然更新をすべき期間内に、天然に発生した稚幼樹の成立が確実に見込める樹高成長があり、かつ、周辺の植生の草丈に50cm程度の余裕高を加えた樹高となった高木性樹種^(注1)の稚幼樹等^(注2)が、幼齡林^(注3)では成立本数が立木度^(注4)3以上、幼齡林以外の森林では林地面積^(注5)に対する疎密度が30%以上となった状態をもって更新完了とします。

また、ぼう芽更新の場合は、切株から発生した萌芽幹の生育が確実に見込める伸長があり、かつ、周辺の植生の草丈に50cm程度の余裕高を加えた樹高となった状態で、幼齡林では成立本数が立木度3以上、幼齡林以外の森林では林地面積に対する疎密度が30%以上となった状態をもって、更新完了とします。ただし、林地内で更新の状況が異なる場合は区画を分割し、それぞれの区画に対して判断を行うこととします。

天然更新をすべき期間内に完了の判断基準を満たさない場合は、天然更新補助作業又は植栽

により更新を図ることとします。

また、更新の方法を変更して人工造林により更新を行う場合は、「人工造林の標準的な方法」において樹種ごとに定められた標準的な本数を植栽することとします。

なお、天然更新の完了を確認する方法の詳細については、「天然更新完了基準書の制定について（平成24年5月15日付け森林第111号森林計画課長通知）」によることとします。

（注1）「高木性樹種」とは、将来において樹冠上層部を形成する樹種で、かつ、樹高が10m以上になる樹種です。

（注2）「稚幼樹等」とは、稚幼樹のほか、保残木及びぼう芽を含みます。

（注3）「幼齡林」とは、伐採後おおむね15年生未満の森林をいいます。

（注4）「立木度」とは、幼齡林において、現在の林分の本数と当該林分の林齢に相当する期待成立本数（天然更新すべき本数の基準）との対比を十分率であらわしたもので、立木度3は期待成立本数の3割が更新した状態をいいます。

$$\text{立木度} = \text{現在の林分の本数} / \text{当該林分の期待成立本数} \times 10 \quad (\text{注6})$$

（注5）「林地面積」とは、更新完了の判断を行う区画の面積です。

（注6）「天然更新をすべき期間が満了した日における期待成立本数」

広葉樹		針葉樹（中層、下層は広葉樹に準じる）	
階層	期待成立本数	階層	期待成立本数
上層	300本/ha	上層（カラマツ）	300本/ha
中層	3,300本/ha	上層（その他の針葉樹）	600本/ha
下層	10,000本/ha		

上層：母樹になりうる前生樹で、樹冠が大きく成長した壮齡林、老齡林（天然林の標準伐期齡）

中層：伐採後に更新したと考えられるもののうち、樹種特性上初期成長が早い樹種及び前生樹などで上層木より樹冠面積の小さいもの

下層：中層木よりも樹冠面積の小さいもの

（イ）天然更新補助作業の標準的な方法

天然下種により更新を行う場合には、ササや粗腐植の堆積等により更新が阻害されている箇所については、かき起こしや、枝条整理等を行うこととし、ササなどの競合植物により天然に発生した稚幼樹の生育が阻害されている箇所については、刈出し等を行うこととします。

また、ぼう芽により更新を行う場合には、樹液の流動期（6～8月）を避けて伐採するとともに、ぼう芽の発生状況等を考慮し、必要に応じ、芽かき又は植込み等を行うこととします

いずれの箇所も定期的に更新の状況等を確認し、必要に応じ補植等を行い、更新を確保することとします。

なお、かき起こしの実施にあたっては、林地の保全に十分留意することとし、更新が不十分な箇所については、補植等を行って更新を確保することとします。

（3）伐採跡地の天然更新をすべき期間

伐採跡地における林地の荒廃を防止する観点から、伐採が終了した日を含む年度の翌年度の初日から起算して5年以内に更新を完了させることとします。

期間内に更新が完了しなかった場合は、速やかに更新を図る観点から、伐採が終了した日を含む年度の翌年度の初日から起算して7年を経過する日までに天然更新補助作業又は植栽により更新を図ることとします。

3 植栽によらなければ適確な更新が困難な森林に関する事項

（1）植栽によらなければ適確な更新が困難な森林の基準

主伐後の適確な更新を図るため、次の森林については原則として植栽によらなければ適確な更新が困難な森林とし、植栽により更新を図ることとします。

植栽によらなければ適確な更新が困難な森林の基準及び区域は、自然条件や森林の有する機能の早期回

復に対する地域住民等からの社会的要請などを勘案し、次のとおり定めます。

ア 気候、地形、地質、土壌等の自然条件及び植生等により天然更新が期待できない森林

イ 水源涵養機能の早期回復が求められる水資源保全ゾーンの森林

なお、天然更新が期待できない森林を指定する場合は、ぼう芽更新に適した立木や天然下種更新に必要な母樹の存在状況、天然更新に必要な稚幼樹や後継樹の生育状況、林床や地表の状況、病虫害などの被害の発生状況、当該森林及び近隣における主伐箇所の天然更新の状況などを勘案することとします。

指定する森林の区域は次表のとおりです。

(2) 植栽によらなければ適確な更新が困難な森林の所在

林班	小班	備考
別表3	木材等生産林に指定された区域の人工林（別表3参照）	(注1)
別表3	木材等生産林に指定された区域の天然林 ^(注2)	

(注1)森林経営計画の長期の方針において、人工林内にミズナラ、シナノキ、イタヤカエデ等の広葉樹小径木が更新しており、植栽木のみを伐採して天然林化が図れると認められる森林を除く。

(注2)森林経営計画の認定を受けた森林で、植栽による更新を計画した区域。

なお、上記の森林において、主伐を行う場合は、「伐採跡地の人工造林をすべき期間」の期間内に人工造林を行う必要があります。

4 森林法第10条の9第4項の規定に基づく伐採の中止又は造林をすべき旨の命令の基準

(1) 造林の対象樹種

ア 人工造林の場合

1の(1)による。

イ 天然更新の場合

2の(1)による。

(2) 生育し得る最大の立木の本数

2の(2)において記載している「5年生の天然更新の対象樹種の期待成立本数」による。

5 その他必要な事項

伐採跡地が放置されないようにするため、森林組合等と連携し、森林経営に意欲的な者に伐採跡地の取得を促すなど、林地流動化の取組みを通じて、伐採跡地等への更新を確保します。

第3 間伐を実施すべき標準的な林齢、間伐及び保育の標準的な方法その他間伐及び保育の基準

Iの2の森林整備の基本方針を踏まえ、適切な森林の施業方法により、間伐及び保育を実施することとします。

1 間伐を実施すべき標準的な林齢及び間伐の標準的な方法

(1) 間伐は、林冠がうっ閉（隣り合わせた樹木の葉が互いに接して葉の層が林地を覆うようになることをいう。）し、立木間の競争が生じ始めた森林において、主に目的樹種の一部を伐採する方法により、伐採後、一定の期間内に林冠がうっ閉するよう行うこととします。

(2) 間伐にあたっては、森林資源の質的向上を図るとともに、適度な下層植生を有する適正な林分構造が維持され、根の発達が促されるよう、適切な伐採率により繰り返し行うこととします。特に、高齢級の森林における間伐に当たっては、立木成長力に留意するものとします。なお、主要樹種ごとの標準的な間伐の時期等の目安については、次表のとおりとします。

(ウ) 保育コストの低減を図り、労働災害の防止に資するため、緩傾斜地など機械化による作業に適した条件にある森林については、高性能林業機械の導入や列状間伐を推進することとします。なお、主要樹種ごとの標準的な間伐の時期等については、次表のとおりとします。

【育成単層林】

樹種	施業体系	間伐の時期（林齢）					間伐の方法
		初回	2回	3回	4回	5回	
カラマツ 【グイマツ との交配種 を含む】	植栽本数：2,000本/ha 仕立て方法：中庸仕立て 主伐時の設定：450本/ha	26	36	48	—	—	選木方法：定性及び列状 間伐率：20～35% 間伐間隔年数 標準伐期齢未満：10年 // 以上：12年
トドマツ (一般材)	植栽本数：2,000本/ha 仕立て方法：中庸仕立て 主伐時の設定：400本/ha	18	24	30	38	—	選木方法 定性及び列状 間伐率 20～35% 間伐間隔年数 標準伐期齢未満 6年
アカエゾマ ツ (一般材)	植栽本数：2,000本/ha 仕立て方法：中庸仕立て 主伐時の設定：400本/ha	21	28	35	44	55	選木方法 定性及び列状 間伐率 20～35% 間伐間隔年数 8年

注1) 「カラマツ間伐施業指針及び「トドマツ人工林間伐の手引き」「アカエゾマツ人工林施業の手引き（地独）北海道立総合研究機構林業試験場発行）」などを参考とした。

注2) 植栽本数、主伐時の生産目標及び仕立て方法、主伐後の施業方針等により、間伐時期が異なることに留意すること。

- (3) 保育コストの低減を図り、労働災害の防止に資するため、緩傾斜地など機械化による作業に適した条件にある森林については、高性能林業機械による効率的な作業システムの導入や列状間伐を推進する集材距離を考慮した路網の整備を進め、施業の集約化を図ることにより、施業の省力化・効率化に努めることとします。

2 保育の種類別の標準的な方法

(1) 下刈り

植栽木の成長を阻害する草本植物等を除去し、植栽木の健全な育成を図るため、特に作業の省力化・効率化にも留意しつつ、局部的気象条件、植生の繁茂状況等に応じて適切な時期及び作業方法により行うこととし、その終期は、植栽樹種の生育状況、植生の種類及び植生高により判断することとします。

(2) 除伐

下刈りの終了後、林冠がうっ閉する前の森林において、侵入木や通常の成長が見込めない若しくは形質の悪い植栽樹種などを除去し、植栽樹種の健全な成長を図るため、森林の状況に応じて適時適切に行うこととします。植栽樹種以外であっても、その生育状況、森林の有する公益的機能の発揮及び将来の利用価値等を勘案し、有用なものは保残し育成の対象とすることとします。

(3) つる切り

育成の対象となる立木の健全な成長を促すため、樹幹に巻き付いたつる類を切って取り除くこととします。除伐を合わせて行うことを基本とし、つる類の繁茂の状況に応じて実施します。

なお、主要樹種ごとの標準的な保育の時期等については、次表のとおりとします。

【標準的な実施時期】

作業種別	樹種	林 齢										
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
下刈り	カラマツ	←————→										

	トドマツ	←											
	アカエゾマツ	←											

「森林総合技術セミナーテキスト 人工林の施業－保育編－」（(地独)北海道立総合研究機構林業試験場発行を参考とした。

注) 下刈りは、現地の状況に応じて、省略や隔年での実施、早期の終了を検討すること

年2回の下刈りは、植栽木と下層植生の競合状態などを把握した上で、必要な場合のみ実施すること。

作業種別	樹種	林 齢											
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20		
除伐	カラマツ	△					△						
	トドマツ		△										
	アカエゾマツ						△						

(注 1) カラマツには、グイマツとの交配種を含む。

(注 2) △：つる切り、除伐等

3 その他必要な事項

枝打ちについては、生産目標及び立木の生育状況に応じて適切な時期及び枝打ち高により積極的に行うこととします。

第4 公益的機能別施業森林等の森林の整備に関する事項

1 公益的機能別施業森林の区域及び当該区域内における施業の方法

森林は単一の機能のみではなく、複数の機能を有していますが、その中でも土砂の流出を抑え、山地災害を防止する機能の発揮を期待する森林については、人々の生命・財産を守る最も重要な機能の発揮を期待する森林として位置づけ、山地災害防止林等の公益的機能別施業森林として設定することを基本とします。

保安林や様々な法律等による指定区域内の森林については、指定目的に応じた森林の有する公益的機能の維持増進が不可欠であるため、公益的機能別施業森林の区域とします。ただし、期待する機能の発揮に向けた最も適切な施業方法が異なる場合は、複数の機能の発揮を期待する森林として取り扱うことも可能とします。

(1) 水源の涵養の機能維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林（水源涵養林）

ア 区域の設定

水源涵養機能の高度発揮が求められている森林を基本とし、水源かん養保安林及び干害防備保安林、ダム集水区域や主要な河川の上流に位置する水源地周辺の森林、地域の用水源として重要なため池、湧水池、溪流等の周辺に存する森林、水源涵養機能の評価区分が高い森林など、集水区域等の森林の自然条件、林況、地域の要請を踏まえ、水源の涵養の機能の維持増進を図る森林について別表1のとおり定めます。

イ 森林施業の方法

下層植生や樹木の根を発達させる施業を基本とし、伐期の延長、伐採に伴って発生する裸地の縮小及び分散を図ることとし、このような森林施業を推進すべき森林を別表2のとおり定めます。

(2) 土地に関する災害の防止及び土壌の保全の機能、快適な環境の形成機能又は保健機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林

ア 区域の設定

a 土地に関する災害の防止、土壌の保全機能の増進を図る森林（山地災害防止林）

土砂崩壊防備保安林、土砂流出防備保安林、なだれ防止保安林及び落石防止保安林、砂防指定地周辺、その他山地災害の発生により、人命・人家等施設への被害の恐れがある森林、その他山地災害防止機能及び土壌保全機能の維持増進を図る森林

を別表 1 のとおり定めます。

① 快適な環境形成の機能の維持増進を図る森林（生活環境保全林）

防霧保安林、防火保安林や騒音・粉塵等の影響を緩和する森林、その他快適環境の形成機能の維持増進を図る森林を別表 1 のとおり定めます。

② 保健・レクリエーション機能、文化機能及び生物多様性保全機能の維持増進を図る森林（保健・文化機能等維持森林）

保健保安林、風致保安林、文化財保護法に規定する史跡名勝記念物にかかる森林、キャンプ場、森林公園等の施設を伴う森林、史跡等と一体となり優れた景観等を形成する森林、その他保健文化機能及び生物多様性機能が高い森林について、別表 1 のとおり定めます。

イ 森林施業の方法

地形・地質等の条件を考慮した上で、伐採面積の縮小及び伐採個所の分散を図るとともに、天然力を活用した施業、憩いと学びの場を提供する観点からの広葉樹の導入を図る森林、美観の維持・形成に配慮した施業の推進を図ることとし具体的には公益的機能を図るため、択伐による複層林施業を推進すべき森林として、それ以外の森林については択伐以外の方法による複層林施業を推進すべき森林として定めます。

また、一部を皆伐しても、適切な伐区の形状・配置等により機能の確保が可能な森林は、長伐期森林を推進すべき森林とした上で、一部を皆伐することを可能とします。なお、特定広葉樹育成施業を推進すべき森林として定めます。それぞれの森林区域については、別表 2 のとおり定めます。

2 木材の生産機能の維持増進を図るための施業を推進すべき森林の区域及び当該区域内における施業の方法

(1) 区域の設定

木材等生産機能の維持増進を図る森林の区域については、林木の生育が良好な森林で地形、地利などから効率的な森林施業が可能な森林の区域について設定することとします。このうち、林地生産力や傾斜等の自然条件、林道等や集落からの距離等の社会的条件を勘案し、森林の一体性を踏まえつつ、特に効率的な森林施業が可能な森林の区域を定めることとします。

なお、公益的機能別施業森林及び木材等生産機能の維持増進を図る森林の区域については、重複を認めるものとし、森林の有する公益的機能の発揮に支障が生じないように定めるものとし、

また、木材の生産機能の維持増進を図る森林を別表 1 のとおり定めます。

(2) 森林施業の方法

木材等生産機能の維持増進を図る森林については、森林の有する公益的機能の発揮に留意しつつ、路網整備、森林施業の集約化・機械化等を通じた効率的な森林整備を推進することとし、多様な木材需要に応じた持続的・安定的な木材などの生産が可能となる資源構成となるよう、計画的な主伐と植栽による確実な更新に努め、特に効率的な森林施業が可能な森林の区域のうち人工林においては、原則として植栽による更新を行うこととします。

森林の区域	区域の設定の基準	施業の方法に関する指針
木材等生産林	材木の生育に適した森林、路網の整備状況等から効率的な施業が可能な森林など、木材等生産機能の評価区分が高い森林で、自然条件等から一体として森林施業を行うことが適当と認められる森林について、必要に応じて林小班単位で定める。	木材等生産林においては、製材等の一般材生産を目標とし、主伐時期については、木材等資源の効率的な循環・利用を考慮して、伐採時期の多様化を図るなど、木材の利用目的に応じた時期で伐採することとし、人工林の主要な樹種の標準的な主伐時期については、次表を目安として、適切な造林、保育及び間伐等を推進することを基本とし、森林施業の集約化、路網整備や機械化等を通じた効率的な森林整備を推進する。
特に効率的な施業が可能な森林	上記を踏まえ、かつ、人工林を中心とした林分構成であり、傾斜が比較的緩やかで路網からの距離が近い森林。	上記に加え、伐採後は、原則植栽による更新を行う。

【樹種別生産目標】

樹種	主伐時期	仕立て方法	主伐時期の平均直径
カラマツ類 (グイマツとの交配種を含む)	60年	中庸仕立て	一般材生産・30cm
トドマツ	50年	//	一般材生産・30cm
アカエゾマツ	70年	//	一般材生産・30cm
広葉樹人工林	60年	//	一般材生産・30cm
天然林	80年	択伐施業	一般材生産・36cm

3 その他必要な事項

北海道の特性に応じた森林の整備・管理を進めるため、公益的機能別森林の区域に重複して次の区域を設定します。

(1) 水資源保全ゾーン

ア 区域の設定

水源涵養林のうち、属地的に水源涵養機能の発揮が特に求められている森林を基本とし、水道取水施設等の集水域及びその周辺において、町が特に水質保全上重要で伐採の方法等を制限する必要があると認める森林について、それぞれの森林の立地条件、地域の要請を踏まえ、林小班単位で定めます。特に北海道水資源の保全に関する条例（平成24年北海道条例第9号）第17条の規定に基づく水資源保全条地域に指定される森林について、林小班単位で定めます。

該当なし

イ 森林施業の方法

1の水資源涵養林における森林施業を基本とし、伐採面積の縮小及び伐採箇所の分散化に努めることとし、伐採面積の規模の縮小を行うべき森林を別表2のとおり定めます。

水質への影響を最小限に抑えるため、伐採、造材及び搬出を冬季間に行うなど、時期や搬出方法等に留意するとともに、集材路等へ水切りを設置するなど降雨等により河川に土砂が流出しないよう、きめ細かな配慮を行うこととします。

伐採跡地については早期に確実な更新を図るものとします

(2) 生物多様性ゾーン(水辺林タイプ)

ア 区域の設定

保健・文化機能等維持林のうち、属地的に生物多様性保全機能の発揮が特に求められている森林を基本とし、中でも生物多様性への配慮が求められる水辺林、周囲からの土砂や濁水等の流入により生態系に影響を与える恐れのある水辺林、地域で生物多様性の維持増進に取り組んでいる水辺林等、特に保全が必要と認める水辺林について、河川の両岸・湖沼周辺から原則20m以上の区域を小班単位又は小班の一部について定めます。

イ 森林施業の方法

1の保健・文化機能等維持林における森林施業を基本とし、択伐による複層林施業を推進すべき森林として別表2のとおり定めます。

作業路・集材路は極力既設路線の使用に努め、集材路や重機の使用に当たっては土砂流出等を最小限に抑えるようきめ細やかな配慮を行うなど、伐採及び造林に伴う地表かく乱を最小限に抑えることとします。

(3) 生物多様性ゾーン（保護地域タイプ）

ア 区域の設定

保健・文化機能等維持林のうち、属地的に生物多様性保全機能の発揮が特に求められている森林を基本とし、他の法令や計画等により既に保護地域として設定されている森林のほか、特に保護地域として保全が必要と認める森林について、林小班単位で定めます。

イ 森林施業の方法

1の保健・文化機能等維持林における森林施業を基本とし、択伐による複層林施業を推進すべき森林として別表2のとおり定めます。

また、伐採等による環境変化を最小限に抑えることを最優先し、森林の保護を図ることとします。

第5 委託を受けて行う森林の施業又は経営の実施の促進に関する事項

1 森林の経営の受委託等による森林の経営規模の拡大に関する方針

本町の一般民有林面積の75%を占める林家等の森林所有者は5ha未満の小規模所有であり、森林面積の50%を占め、さらにこれらの山林の多くは、長期間不在村所有となり整備の行われない森林が多く存在しています。このような条件の中で、一般民有林の28%を占める3,706haの人工林及び、択伐が可能な天然林を計画的に集約化し、主伐、間伐などの施業を効率化するため林業経営の受託や林地流動化の促進により、林業経営規模の拡大を図ります。

2 森林の経営の受委託等による森林の経営の規模の拡大を促進するための方策

森林施業の規模拡大を図るために、施業のまたは経営の委託による低コストで効率的な森林整備を進め、所有者の収入増加による施業意欲の向上を促し、林業従事者の養成及び確保、木材の安定供給等を総合的に推進することとします。このために森林施業や林業経営の合理化・効率化の目標を定め推進するための体制づくりを、町、森林組合、森林所有者等が地域ぐるみで取り組むこととします。

各集落に実行責任者たる集落リーダーを配置し、集落単位で間伐をはじめとする森林施業の実施に関する話し合いを行い、集落単位での森林の施業委託を図っていくこととします。

その際、長期の施業等の委託が円滑に進むよう、森林の土地の所有者届出制度の運用や固定資産税情報の適切な利用を通じ、得られた情報を林地台帳に反映するなどして、森林所有者情報の精度向上を図るとともに、その情報提供を促進することとします。

特に、本町の林業労働力の担い手である森林組合への施業委託の推進により、資本の整備や執行体制強化及び作業班の強化等事業実施体制の整備を図ることとします。

3 森林の経営の受委託等を実施する上で留意すべき事項

森林の施業又は経営の受託を実施する際には、受託者である森林組合・林業事業体と委託者である森林所有者が森林経営受委託契約を締結することとします。

なお、森林経営計画の計画期間内（5カ年）において、自ら森林経営を行うことが出来るよう造林、保育及び伐採に必要な育成権が付与されるようにすることに加えて、森林経営計画が施業の行う森林のみならず、当面の施業を必要としない森林に対する保護も含めた計画となるよう委託事項を設定するほか、施業実施や管理に必要な路網の設置及び維持管理に必要な権原や森林整備に要する支出の関係を明確化するための条項を適切に設定することに留意することとします。

4 森林経営管理制度の活用に関する事項

林業の成長産業化と森林資源の適切な管理の両立を図るため、本町を介して森林所有者が自ら林業経営を行えない森林を意欲と能力のある林業経営者につなぐことで林業経営の集積・集約化を図るとともに、経済的に成り立たない森林については、本町が自ら経営管理を行うことができるように図るなど、森林経営管理制度の活用を努めることとします。

また、森林経営管理制度に基づく意向調査については、森林調査簿や林地台帳をもとに経営管理が行われていないと思われる森林を対象として実施し、森林所有者が責務を果たすよう森林経営計画の作成を促進します。

5 その他必要な事項

特になし

第6 森林施業の共同化の促進に関する事項

1 森林施業の共同化の促進に関する方針

本町の森林所有者には小規模な森林所有者が多く、さらに施業放棄林分も多く存在しています。このなかで多くの森林所有者が高齢化し、また不在村者の所有林が増加しているため、個々の所有者の意向による施業には多くの負担が伴う傾向になっています。

各所有者の施業を効果的に実施するためには、森林所有者間の合意形成を図りながら事業実施の計画的な推進を行うことで、流域の大半所有者が参画できる事業実施に向けた取り組みを行なっていくこととします。

2 施業実施協定の締結その他森林施業の共同化の促進方策

不在村森林所有者が多い本町において、森林所有者による個人で伐採、造林、保育及び間伐等を計画的に実施し、良質材の生産を目指すことは困難であるため、施業の共同化を助長し、合理的な林業経営を推進する必要があります。

そのため、森林法第10条の11の8第1項で規定される施業実施協定の締結の促進を図り、森林施業の共同実施及び作業路網の維持管理等について、森林施業の共同化を進めます。

【森林施業共同化重点的実施地区の設定計画】

地区の名称	地区の所在	区域面積	対図番号
礼文華第1地区	71～74林班	422ha	1
礼文華第2地区	67～69林班	400ha	2
大岸川左岸地区	61～66林班	765ha	3
大岸豊泉地区	52～57林班	401ha	4
計		1,988ha	

3 共同して森林施業を実施する上で留意すべき事項

森林所有者等が共同して森林施業を実施する際は、次の事項に留意することに努めることとします。

- (1) 共同森林施業実施者は、一体として効率的に施業を実施するのに必要な作業員、土場、作業場等の施設の設置及び維持管理の方法並びに利用に関し必要な事項をあらかじめ明確にすること。
- (2) 共同施業実施者は、共同して実施しようとする施業の種類に応じ、労務の分担又は相互提供、林業事業体等への共同による施業委託、種苗その他共同購入等共同して行う施業の実施方法をあらかじめ明確にすること。
- (3) 共同施業実施者の一部が明確にした必要事項について遵守しないことにより、他の共同施業実施者に森林施業の共同化の実効性が損なわれないよう、あらかじめ施業の共同実施の実効性を担保するための措置について明確にすること。

4 その他必要な事項

特になし

第7 作業路網その他森林整備のために必要な施設の整備に関する事項

1 効率的な森林施業を推進するための路網密度の水準及び作業システムに関する事項

(1) 路網密度の水準

本町のように森林所有形態が小規模であり、急傾斜面で区切られた地形で効率的な森林施業を実施するため、効率的な森林施業を推進するための林地の傾斜区分や搬出方法に応じた路網の水準について、次のとおり定めます

【効率的な森林施業を推進するための路網密度の水準】

単位 路網密度 m/ha

区 分	作業システム	路 網 密 度	
			基幹路網
緩傾斜地（0～15度）	車両系作業システム（注1）	110以上	35以上
中傾斜地（15～30度）	車両系作業システム	85以上	25以上
急傾斜地（30度以上）	架線系作業システム（注2）	20〈15〉以上	20〈15〉以上

（注1）「車両系作業システム」とは、車両系の林業機械により林内の路網を移動しながら集積、運搬するシステム。グラップル、フォワーダ等を活用。

（注2）「架線系作業システム」とは、林内に架設したワイヤーロープに取り付けた機器等を移動させて木材を吊りあげて集積するシステム。タワーヤード等を活用。

（注3）「急傾斜地」の〈〉書きは、広葉樹の導入による針広混交林化など育成複層林へ誘導する森林における路網密度。

なお、本表は、木材搬出予定箇所で路網を整備する際の目安として適用するものであり、施業を行わない箇所、伐採・搬出を伴わない施業（造林、保育）を行う箇所に適用するものではありません。

(2) 作業システムに関する基本的な考え方

作業システムについては、間伐等の素材生産の低コスト化、効率化を図るためには高性能林業機械の性能を最大限に発揮した生産性の向上が不可欠となります。このためには、機械の性能に応じ一定規模以上の事業量の安定的な確保や、機械作業に適合した高密度の路網、工程全体を通じて生産性が高まるような人員や機械の配置など、地域においてそれらを総合的に組み合わせた低コスト作業システムを構築していく必要があります。

特に、作業全体の効率性を左右する木寄せ・集材工程の効率化を図ることが重要であることから、次の表を目安として主にグラップル、フォワーダ等の車両系林業機械に適合させる形で、輸送距離や輸送量を勘案し、路網をそれぞれの役割に応じて組み合わせ、傾斜等に応じた密度により適切に配置することとします。

【造材に伴う作業システム】

傾斜区分	伐 倒	集材《木寄せ》	造 材	巻 立 て
緩傾斜地 (0°～15°)	フェラーバンチャー	トラクタ【全木集材】	ハーベスタ・プロセッサ	グラップルローダ
		《グラップルローダ》		(ハーベスタ・プロセッサ)
	フェラーバンチャー	スキッド【全木集材】	ハーベスタ・プロセッサ	グラップルローダ
				(ハーベスタ・プロセッサ)
ハーベスタ	トラクタ【全幹集材】	ハーベスタ	グラップルローダ	
	《グラップルローダ》		(ハーベスタ)	
ハーベスタ	フォワーダ【短幹集材】	(ハーベスタ)	(フォワーダ)	
中傾斜地 (15°～30°)	チェーンソー	トラクタ【全木集材】	ハーベスタ・プロセッサ	グラップルローダ
		《グラップルローダ》		(ハーベスタ・プロセッサ)
急傾斜地 (30°)	チェーンソー	スイングヤード	チェーンソー	グラップルローダ
		【全幹集材】	ハーベスタ・プロセッサ	(ハーベスタ・プロセッサ)

- ※ () は、前工程に引き続き同一機種により実施する工程について記載。
- ※ 【 】 は、集材方法
- ※ 集材《木寄せ》工程において、グラップルローダ（全幹）を集材に活用している事例がある。

2 路網整備と併せて効率的な森林施業を推進する事項

間伐等の森林施業を実施する計画があり基幹路網を解説する予定がある区域や森林施業を実施することが望ましいものの既設路網がなく基幹路網の開設が必要な区域（路網整備等推進区域）を設定し、路網整備と併せて効率的な森林施業を推進することとします。

次のとおり設定します。

路網整備等推進区域名	面積	開設予定路線	開設予定延長	対図番号	備考
礼文華第一	129ha	礼文華中央		1	平成22年開設
上泉地区	646ha	上泉支線	500m	2	
礼文華	117ha	遠藤の沢	1800m	3	

3 作業路網の整備に関する事項

(1) 基幹路網に関する事項

① 基幹路網の作設に関する留意点

安全の確保、土壌の保全等を図るための適切な規格・構造の林道整備のため、林道規定（昭和48年4月1日付け林野庁第107号林野庁長官通達）、林業専用道作設指針（平成22年付け22林整備第602号林野庁長官通知）を基本として、道が定める林業専用道作設指針（平成23年3月31日付け森計第1280号北海道水産林務部長通知）に則り開設することとします。

② 基幹路網の整備計画

林道を含む基幹路網の開設・拡張計画は次のとおりです。

なお、基幹路網の開設にあたっては、自然条件や社会的条件が良好であり、将来にわたり育成単層林として維持する森林を主体に整備を加速させるなど、森林施業の優先順位に応じた整備を推進することとします。

延長：km 面積：ha

開設/拡張	種類	区分	路線名	延長 (注1)	箇所数	利用区域 面積	前半5カ年の 計画箇所	備考
開設	自動車道	林業専用道	桜西川支	1.2	1	51	○	起点：豊浦町字桜 終点：豊浦町字桜
開設	自動車道		新富新山梨 1号支	3.3	1	122	○	起点：豊浦町字新山梨 終点：豊浦町字新山梨
開設	自動車道		豊泉佐々木 支		1			起点：豊浦町字豊泉 終点：豊浦町字豊泉
拡張	自動車道（改良）		大和		1			局部改良
開設	自動車道		新富新山梨 2号支		1			起点：豊浦町字新富 終点：豊浦町字新富
開設	自動車道		上泉青山		1			起点：豊浦町字上泉 終点：豊浦町字上泉
開設	自動車道		二セコ桂台	01	1	8	○	起点：豊浦町字新富 終点：二セコ町字桂台

(注1) 延長は前半5カ年の計画のみの記載

【道有林】

開設/ 拡張	種類	区分	路線名	延長	箇所数	利用区 域面積	前半5力年 の計画箇所	備考
開設	自動車 道	林業専 用道	大岸	1.9km	1	54	○	起点:豊浦町字大岸 終点:豊浦町字大岸 本線
開設	自動車 道	林業専 用道	大岸 第 1支線他	1.8km	2	99	○	起点:豊浦町字大岸 終点:豊浦町字礼文華(支線2)

(2) 細部路網の整備に関すること

持続的な使用に供する森林作業道の開設について、丈夫で簡易な規格・構造の路網を整備する観点から森林道作設指針（平成22年11月17日付け林野庁長官通達）を基本とし、道が定める森林作業道作設指針（平成23年3月31日付け森整第1219号北海道水産林務部長通知）に則り開設します。

(3) 基幹路網の維持管理に関する事項

「森林環境保全整備事業実施要領」（平成14年3月29日付け林野庁長官通達）を基本として、「民有林台帳について」（平成8年5月16日林野庁長官通知）等に基づき管理者を定め、台帳を作成して適切に管理するものとします。

4 その他必要な事項

(1) 土場、作業施設その他の森林整備に必要な施設の整備にあたっては、地形・傾斜等地域の特性に応じ、集約化施業や高性能林業機械による低コスト作業に対応するなど、木材等の合理的な搬出を行うために必要な施設として整備し、適切に管理することとします。

(2) 林道等通行の安全確保のため、標識や安全施設の整備に努めるとともに、機能保全や災害の未然防止のため、林道等の適切な維持管理に努めることとします。

また、通行の安全を確保するため、必要に応じて、通行を禁止する安全施設の整備を講ずるものとします。

(3) 林道の開設等にあたっては、開設現場周辺の確認や必要に応じて専門家等への相談を行うなど、希少鳥類（オジロワシ、オオワシ、タンチョウ、シマフクロウ等）に配慮することとします。

第8 その他必要な事項

1 林業に従事するものの養成及び確保に関する事項

林業に従事する者の養成及び確保については、地域での長期的に安定的な事業の確保と、計画的な事業実施が重要であり、安定的な雇用条件を確保する必要があります。森林組合等においては、技能・技術の習得のための計画的な研修の実施による林業就業者の技術者養成が不可欠です。

林業従事者の通年雇用化、社会保険の加入促進などによる雇用関係の明確化と雇用の安定化、技能などの客観的な評価の促進により、他産業並みの所得水準の確保に向けて取り組むとともに、労働安全対策を強化し、労働環境の改善を図ることとします。

また、地域の実態に応じた林業への新規参入・起業など林業従事者の裾野の拡大、女性等の活躍・定着に取り組むこととします。

(1) 人材の育成・確保

林業就労者や林業後継者等の育成のため、先進的な林業技術等の普及と啓発、後継者の育成に努める必要があります。林業の担い手である篤林家や、林業に従事したベテラン作業員等の林業経験者等から森林施業技術を継承し発展させ、また各種林業補助施策や内外の木材市況の動向等の情報提供に努めるとともに、林業グループなどの仲間づくりに努めることとします。

(2) 林業事業体の経営体質強化

年間を通じた林業従事者の就労を確保するため、林業事業体における森林整備事業の掘り起こしや林業経営コンサルタントなど、経営の多角化や協業化、合併等による広域化を進め経営体質強化、高度化を促進することとします。特に、地域の森林における森林整備の中心的な担い手や山村地域の雇用の受け皿として、重要な役割を担う森林組合の経営基盤の強化が必要であるため、組織体制の充実

や事業活動の強化、組合間の事業連携等の促進を図り、持続的な森林経営を担う森林組合の育成に努めるものとします。

さらに、林業事業体の基本的情報等を登録し、公表する「北海道林業事業体登録制度」により、本町の森林所有者等が客観的情報に基づき森林整備等の受託者を選択することができるようにするとともに、適切な森林施業の実施や労働安全衛生管理に努める健全な林業事業体の育成に取り組むこととします。

2 森林施業の合理化を図るために必要な機械の導入の促進に関する事項

木材の生産供給体制の整備と森林施業の合理化、作業の省力化・軽労化を図るため、ハーベスタ等による伐倒や、枝払い・玉切り作業、フォワーダ等による集材作業によるシステムを採用するなど、高性能林業機械による作業システムを促進します。

また、ICT等の先端技術を幅広く活用したスマート林業を展開し、安全で効率的な森林施業の定着を推進します。

作業種による高性能機械を主体とした林業機械の導入目標は次表のとおりとします。

作業の種類		現状（参考）	将来
伐	採	チェーンソー	チェーンソー、ハーベスタ
造	材	チェーンソー	チェーンソー、プロセッサ
集材		林内作業車・小型集材車	林内作業車・小型集材車、
造林 保育等	地拵 下刈	チェーンソー 草刈機	チェーンソー 草刈機
	枝打	人 力	リモコン自動枝打機

3 林産物の利用の促進のために必要な施設の整備に関する事項

地域の森林・林業、木材産業等の安定化を図るためには、地域で生産された木材を地域で消費する「地材地消」の推進や森林資源の保続を確保する取組の実施が重要です。このため、地域材の利用に向けた消費者への普及啓発活動や、工務店・設計会社との連携による特色ある取組を通じて、地域材利用の促進を図るよう努めることとします。

また、脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律（平成22年法律第36号）に基づき、北海道が策定した「北海道地域材利用推進方針」（平成23年3月策定）に即して、本町の公共建築物において積極的に地域材や地域材を使用した木製品を利用するほか、木質バイオマスエネルギーの活用など、幅広い用途での地域材の利用の促進と、地域材を低コストで安定的に供給するため、木材流通の合理化や木材産業の体質強化を推進するとともに、国内市場で最初に木材の譲受け等をする木材関連事業者の取り扱う全ての木材が合法性確認木材となるよう、令和5年に改正された合法伐採木材等の流通及び利用の促進に関する法律（平成28年法律第48）に基づき、木材関連事業者による合法性の確認等の実施及び合法性確認木材等の取扱数量の増加等の取組を着実に進めることとします。

古くから行われている本町の気候条件に適した特用林産物の生産は、今後とも地域の重要な生産物として生産者に対する協力と、新規参入者の定着に向けて取り組むこととします。

【林産物の生産(特用林産物)・流通・加工販売施設の整備計画】

種 類	現 状			将 来			備 考
	位 置	規 模	対 函 番 号	位 置	規 模	対 函 番 号	
椎茸生産	東 雲	20t	1		20t	1	原木栽培
山菜生産	礼文華	10t	2		10t	2	特用林産物施設
特用林産物	新山梨	2t	3		5t	3	生産・販売

Ⅲ 森林の保護に関する事項

第1 鳥獣害の防止に関する事項

1 鳥獣害防止森林区域及び当該区域内における鳥獣害の防止の方法

(1) 区域の設定

区域の設定対象とする森林は、「鳥獣害防止森林区域の設定に関する基準について（平成28年10月20日付け28林整研第180号林野庁官通知）」及び、エゾシカによる森林被害の状況等を把握できる全国共通のデータ等に基づき、食害や剥皮等の被害がある森林又はそれら被害がある森林の周辺に位置し被害発生の恐れがあるなど、エゾシカによる被害を防止するための措置を実施すべき森林であって、人工林であることを基本としますが、地域における森林資源の状況に応じて、天然林も含め設定できることとし、林班単位で別表3のとおり定めます。

(2) 鳥獣害の防止の方法

森林の適確な更新及び造林木の確実な育成を図ることを旨として、地域の実情に応じて、次のとおりエゾシカによる被害の防止に効果を有すると考えられる方法により、次のア又はイによる鳥獣害防止対策を単独または組み合わせ推進することとします。

ア 植栽木の保護措置

防護柵の設置又は維持管理、忌避剤散布や幼齢木保護具の設置、枝条巻き、剥皮防止帯の設置、現地調査等による森林のモニタリング・巡視等を実施します。

イ 捕獲

わな捕獲（ドロップネット、くくりわな、囲いわな、箱わな等によるものをいう。）、誘引狙撃（シャープシューティング、モバイルカリング）等の銃器による捕獲等を実施します。

2 その他必要な事項

鳥獣害防止森林区域においては、エゾシカの被害防止対策が適切に実施されているかどうかを必要に応じて現地調査や各種会議での情報交換、林業事業体や森林所有者等からの情報収集等を行うこと等により確認することとします。

また、食害の生じるおそれがある地域については、造林樹種の選定にあたりアカエゾマツ等の嗜好性の低い樹種の植栽を検討することとします。

第2 森林病虫害の駆除及び予防、火災の予防その他の森林の保護に関する事項

森林の保護等については、適切な間伐等の実施、保護樹帯の設置等により、病虫害、鳥獣害、寒風害、山火事等の森林被害に対する抵抗性の高い森林の整備に努めるとともに、日常の管理を通じて森林の実態を的確に把握し、次の事項に考慮して適時適切に行うこととします。特に現在・過去において諸被害にあった場所においては、同一樹種、同一林齢の人工林を大面積に造成することを避け、多様な樹種・林齢による人工林の造成や、天然林をバランスよく残すこと等により被害のリスクの低減を図ることとします。

1 森林病虫害の駆除又は予防の方法等

(1) 森林病虫害等の駆除又は予防の方法

全国的には松枯れ病、ナラ枯れ病など大規模区域に及び森林病虫害被害の事例があり、過去には道内においてカラマツ先枯れ病やトドマツ枝枯れ病の大被害も経験しています。森林病虫害被害については、被害の早期発見と早期防除が重要であり、当該病虫害の種類や被害の程度に応じ、薬剤の塗布、被害木の伐倒・整理など適切な方法により防除を行うものとしします。

(2) その他

森林病虫害被害の被害の早期発見、早期防除のため、町と森林組合、後志総合振興局、林業試験場、その他林業関係者が連携して対応します。

2 鳥獣害対策の方法(第1に掲げる事項を除く)

ア エゾヤチネズミによる食害の発生を防ぐため、カラマツ植栽地においてはネズミの生息場所となる枝条のたい積を避けるとともに、可能な場合は耐鼠性の高い樹種を植栽する等の対策を行います。また、ネズミの発生動向も踏まえ、必要に応じて殺鼠剤の散布や防鼠溝の設置等の対策を実施することとします。

イ 鳥獣害防止森林区域外のエゾシカ及びその他の野生鳥獣による被害については、その早期発見に努めるとともに、試験研究機関等と連携し、発生原因の究明及び防除技術の開発等を行い、早期防除に努めることとします。

ウ 森林の保護にあたっては、森林組合等の関係機関及び地域住民との一層の協力のもとに、地域の実情に応じて、針広混交の育成複層林や天然生林に誘導するなど、野生鳥獣との共存に配慮した対策を適切に推進することとします。

3 林野火災の予防の方法

山火事等の森林被害を未然に防止するため、林内歩道等の整備を図りつつ、森林巡視、山火事警防等を適時適切に実施するとともに、防火線、防火樹帯等の整備を推進することとします。

また、春先の乾燥時期には森林巡視を強化するほか、森林の保護及び管理を要する重点地域を設け、効果的な防火線・防火道等の整備や保護標識、消火器格納庫等の施設を設置することとします。

4 森林病虫害の駆除等のための火入れを実施する場合の留意事項

突発的な森林病虫害の発生に対応し、緊急的な防除の方法として、被害地での火入れを実施する場合においては、本町の火入れに関する条例(昭和59年6月22日 条例第11号)の内容に基づき、林野火災発生を防止し、効果的な駆除を実施します。そのために、火入れ行為に対しては、林野火災防止のための住民への普及啓発を日常的に実施するものとしします。

5 その他必要な事項

(1) 病虫害の被害を受けている等の理由により伐採を促進すべき森林

森林の所在(字名・林小班)	伐採をすべき理由	備考
該当なし		

※森林病虫害のまん延のために緊急に伐倒駆除する必要がある場合には、伐採の促進に関する指導を行う場合があります。

(2) その他

ア 気象害については、過去の被害事例を参考に保護樹帯を設けるなどの防止対策に努めることとし

ます。

イ 森林の巡視にあたっては、民有林の中で、森林レクリエーションのための利活用者が特に多く、山火事等の森林被害が多発するおそれのある地域を重点的に実施することとし、特に、森林法違反行為の未然防止、山火事の防止、森林の産物の盗採等の防止、森林被害の早期発見等を重点的な点検事項とします。

また、自然公園や自然環境保全地域、鳥獣保護区等の区域、希少な野生生物の生育・生息地域、盗採等の違反行為のおそれがある地域、主要な展望地や園地など利用者の入り込みが多い地域、山火事等の発生が懸念される地域等においては、自然公園指導員、自然保護監視員、鳥獣保護管理員、生物多様性保護監視員、林業関係者等が相互に連携して、巡視活動並びに利用者への指導を行うこととします。

IV 森林の保健機能の増進に関する事項

1 保健機能森林の区域

該当なし

2 保健機能森林の区域内の森林における造林、保育、伐採その他の施業の方法

該当なし

3 保健機能森林の区域内における森林保健施設の整備に関する事項

該当なし

4 その他必要な事項

該当なし

V その他森林の整備のために必要な事項

1 森林経営計画の作成に関する事項

(1) 森林経営計画の記載内容に関する事項

森林所有者が森林経営計画を作成し、計画に基づいた施業を実施することは、当町森林整備計画の達成に寄与することにつながることから、森林所有者に対する制度の周知、作成に対する支援を行い、計画の作成を推進します。

森林経営計画の作成にあたっては、次の事項について適切に計画するものとします。

ア IIの第2の3の植栽によらなければ的確な更新が困難な森林における主伐後の植栽

イ IIの第4の公益的機能別施業森林の施業方法

ウ IIの第5の3の森林の施業又は経営の受委託を実施する上で留意すべき事項及びIIの第6の3の共同して森林施業を実施する上で留意すべき事項

エ IIIの森林の保護に関する事項

(2) 森林法施行第33条第1号口の規定に基づく区域

該当なし

2 生活環境の整備に関する事項

特になし

3 森林の整備を通じた地域振興に関する事項

本町は、洞爺湖・有珠山周辺とともに噴火湾に面する地形と景観等から、世界地質遺産であるジオパークの区域に認定され、その区域内の森林はその地質・地形とともに景観上の大きな役割を果たしています。これらの風光明媚な地形と温暖な気候から、近年では農林水業体験ツアーやホームステイ活動が展開され、さらに新規就農者や定住者の増加促進が進められています。

農林水産業と観光に関わる町の振興にとって、総面積の8割に及ぶ森林とその整備や林産物の利用は、森林・林業に関わる人への影響だけでなく、森林を通じた町の観光等の振興にも大きな役割

を持つものとして活用を図ってゆきます。

4 森林の総合利用の推進に関する事項

本町森林公園施設と周辺森林において地域の歴史紹介、自然生物及び環境の保全を図るとともに、森林生物多様性等の調査研究を進め、森林自然公園としての利用価値の高度化を図ることとします。

また、森林の公益的機能の役割について、住民及び広く訪問者等の理解を深める場として活用を図ります。

5 住民参加による森林の整備に関する事項

(1) 地域住民参加による取組みに関する事項

森林に対する住民のニーズは高度・多様化しており、住民の理解と協力の下、地域住民のニーズに応えた多様な森林整備を推進していくことが必要です。

また、様々な体験活動を通じて森林と関わる形での森林利用や「木育」への期待が高まっていることから、森林所有者等の理解と協力を得ながら、開かれた森林を確保しその整備を進めるとともに、森林環境教育や健康づくり等への森林利用を推進していくこととします。

【主な取組み】

① 住民参加による林業体験活動の推進（植樹、除伐、枝打ち）

② 親子を対象とした「森林環境教育」の推進

③ トレッキングや森林散策会などへの林内道路等の活用

(2) 上下流連携による取組みに関する事項

貫気別川は本町をはじめ、豊かな淡水供給源として、内浦湾岸の各市町漁業への重要な役割を果たしています。このようなことから、下流の住民団体等に対しても「住民参加による林業体験活動」への参加を、積極的に働きかけることとします。

(3) 青少年の学習機会の確保に関する事項

青少年の森林学習を推進するため、学校教育の「総合的な学習の時間」を活用した林業体験学習や「木育活動」など、青少年のための森林利用や体験活動を進めます。

6 森林経営管理制度に基づく事業に関する事項

該当なし

7 その他必要な事項

(1) 特定保安林の整備に関する事項

特定保安林は、指定の目的に即して機能していないと認められる保安林です。その整備にあたっては、間伐等の必要な施業等を積極的かつ計画的に推進し、当該目的に即した機能の確保を図るものとします。

特に、造林、保育、伐採その他の施業を早急に実施する必要がある森林については、「要整備森林」とし、森林の現況等に応じて、必要な施業の方法及び時期を明らかにしたうえで、その実施の確保を図るものとします。

(2) 法令等により施業について制限を受けている森林の施業方法

該当する法令に基づいて施業を行い、制限林が重複して指定されている場合は、制限が強い方の施業方法に基づいて行うよう留意します。

① 保安林及び保安施設地区の区域内の森林

保安林及び保安施設地区の地区内の森林保安林及び保安施設地区の施業方法に係る一般的留意事項は、次のとおりです。

なお、保安林及び保安施設地区の施業方法については、個々に指定施業要件が定められていますが、制限の決定及び立木伐採の許可等の処理は、保安林制度の一環として行われますので留意が必要です。

(ア) 主伐の方法

- a 伐採できる立木は、豊浦町森林整備計画で定める標準伐期齢以上のものとします。
- b 伐採方法は、次の3区分とします。
 - (a) 伐採方法の指定なし（皆伐を含む）
 - (b) 択伐（伐採区域内の立木を均等な割合で伐採するもの）
 - (c) 禁伐（全ての立木の伐採を禁止するもの）

(イ) 伐採の限度

- a 皆伐面積の限度は、森林法施行令第4条の2第3項の規定に基づき公表される面積の範囲内とします。
- b 一箇所当たりの皆伐面積の限度は、次のとおり指定施業要件に定められています。
 - (a) 水源涵養保安林（ただし、急傾斜地の森林及び保安施設事業の施工地等の森林その他森林施業上これと同一の取扱いをすることが適当と認められる森林に限る）については、20haを超えないこととします。
 - (b) 土砂流出防備、飛砂防備、干害防備及び保健の各保安林については、10ha以下とします。
 - (c) その他の保安林であって、当該森林の地形、気象、土壌等の状況を勘案し、特に保安機能の維持又は強化を図る必要があるものについては、20haを超えないこととします。
- c 防風・防霧保安林については、標準伐期齢以上である部分を幅20メートル以上にわたり帯状に残存させなければなりません。
- d 択伐の限度は、当該森林の立木材積に択伐率を乗じて得られる材積を超えないものとします。
- e 初回の択伐率は、指定施業要件に定められている率とします。
また、2回目以降の択伐率は、伐採をしようとする当該森林の立木の材積から前回の択伐直後の当該森林の立木の材積を減じて得た材積を伐採をしようとする当該森林の材積で除して算出し、この率が10分の3を超えるときは10分の3（指定施業要件で定められた条件を満たす場合には10分の4）とします。

(ウ) 特例

- a 伐期齢の特例の認められている保安林は、標準伐期齢に達していなくても伐採することができます。
- b 伐採方法についての特例は、択伐と定められている森林にあっては伐採指定なし、同じく禁伐と定められている森林については択伐とします。
- c 特例の有効期限は、当該特例の指定日から10年以内とします。

(エ) 間伐の方法及び限度

- a 間伐をすることのできる箇所は原則として、樹冠疎密度が10分の8以上の箇所とします。
- b 間伐の限度は、該当森林の立木材積の100分の35を超えない範囲で、指定施業要件に定められた率とします。

(オ) 植栽の方法及び期間

- a 伐採跡地への植栽は、当該箇所に指定施業要件として定められた樹種及び本数を均等に分布するように行わなければなりません。
- b 植栽は、伐採が終了した年度の翌年度の初日から起算して2年以内に行わなければなりません。

② 自然公園特別地域内における森林

該当なし

③ その他の制限林

その他の制限林における伐採方法については、表2のとおりとします。

表2 その他の制限林における伐採方法

区 分	制 限 内 容
その他の制限林	<p>(1) 原則択伐とし、伐採率は蓄積の30パーセント以内とします。</p> <p>(2) 鳥獣保護区特別保護地区内の施業は、鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律第29条第7項の制限の範囲内で行うこととします。</p> <p>(3) 砂防指定地内の森林の施業は、砂防法第4条及び砂防法施行条例第3条及び砂防法施行細則第2条の制限の範囲内で行うものとし、</p> <p style="padding-left: 2em;">立木の伐採にあたっては、治水砂防上影響を及ぼさないよう、原則、択伐としますが、皆伐を行う場合は、伐採面積が1ha未満となるよう留意することとします。</p> <p style="padding-left: 2em;">ア 伐採面積が1ha未満のもの</p> <p style="padding-left: 2em;">イ 森林経営計画で皆伐として計画されたもの</p> <p>(4) 史跡・名勝又は天然記念物に指定されている区域（伝統的建造物群保存地区を除く。）内の森林の施業は、文化財保護法第125条及び北海道文化財保護条例第35条の制限によるものとし、原則、禁伐とします。</p> <p>(5) 急傾斜地崩壊危険区域内の森林に指定されている区域内の森林の施業は、急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律第7条の制限の範囲内で行うものとし、</p> <p>(6) 道自然環境保全地域特別地区内の森林に指定されている区域内の森林の施業は、北海道自然環境等保全条例第17条の制限の範囲内で行うものとし、</p>

(3) 森林施業の技術及び知識の普及・指導に関する事項

地域の特性に応じた具体的な施業の方法に関して、森林組合等の林業事業者、北海道指導林家や青年林業士など地域の関係者の合意形成を図り、地域林業に適した技術により森林整備が進むよう道の指導機関と連携した普及啓発を進めます。